

トクとの結婚



トクと庄吉(※)

■ トクとの出会い

1894年(明治27) アジア各国を転々としていた庄吉は、久しぶりに長崎に戻りました。自分の家の敷居をまたいだものの、見知らぬ女性から「あんた誰ですか」と聞かれる始末。「この家の息子バイ」と憤慨する庄吉でした。この女性こそ、出奔(しゅっぱん)した庄吉に代わって、両親が梅屋家の存続のために壱岐島可須村(現在の壱岐市勝本町)の士族香椎家から養女に迎えられたトクでした。

■ 病床の父の願い

既に老いて病に臥していた養父吉五郎は、久しぶりに姿を見せた庄吉とトクを枕元に呼び、「お前たちが結婚するのを見届けてあの世に行きたい」と祈るように言い聞かせます。庄吉とトクはこの願いを聞き入れ祝言をあげます。吉五郎は、その言葉どおりに二人の結婚後、安心したように息を引き取りました。

■ 9年もの別居生活

祝言をあげた二人でしたが、庄吉はすぐに香港に戻ってしまいます。残されたトクは、養母ノブが他界するまで長崎で梅屋商店を切り盛りします。ようやく庄吉と香港で同居するのは、結婚してから実に9年後のことでした。